



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要

| | | | | | | |
|------|-----------------|-----|-----|--------|----|----|
| 建物名称 | (仮称)平安ステーションホール | BEE | 0.7 | BEEランク | B- | ★★ |
|------|-----------------|-----|-----|--------|----|----|

2. 重点項目への取組み度

| 重点項目 | 得点 [※] /満点 | 取組み度 | 評価 |
|--|---------------------|------|-------|
| "ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming) | 2.9 / 5 | | がんばろう |
| "災害に強いしずおか"の形成 (Disaster) | 2.9 / 5 | | がんばろう |
| "しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design) | 3.0 / 5 | | ふつう |
| "緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature) | 1.9 / 5 | | がんばろう |

※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)

| | | | |
|-------|----------|----------|----------|
| 評価 凡例 | よい | ふつう | がんばろう |
| | 4 点以上 | 3 点以上 | 3 点未満 |

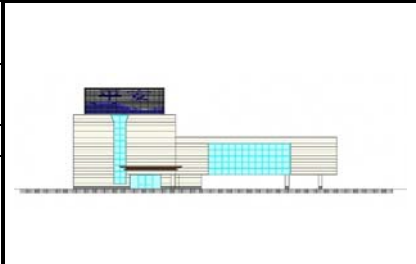
3. 重点項目についての環境配慮概要

| 各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。 | 内訳対応項目 | |
|--|--|--|
| | 得点 | 2.9 |
| "ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming) | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ④各部材についてライフサイクルコストを考慮し、目標使用年数や残存期間に応じた材料・工法を考慮したうえで、仕上・設備の各々における耐久性に留意した。 | Q-1 2 2.1 2.1.2 ① Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 3.2 3.2.1 ③ Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 2.2.2 ④ 2.2.3 ④ 2.2.4 ④ 2.2.5 ④ 2.2.6 ④ | ① 外皮性能 ② 昼光利用設備 ③ 昼光制御 ④ 躯体材料の耐用年数 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 ④ 主要設備機器の更新必要間隔 |
| <ul style="list-style-type: none"> ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) 接道部の緑化を多くし、周辺の景観に配慮した。 | Q-3 1 3 3.2 | ⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ 敷地内温熱環境の向上 |
| <ul style="list-style-type: none"> ■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑨LED照明など高効率な設備機器を採用して、エネルギー消費の削減を図っている。 | LR-1 1 2 3 4 4.1 4.2 | ⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 ⑧ 自然エネルギー利用 ⑨ 設備システムの高効率化 ⑩ モニタリング ⑩ 運用管理体制 |
| <ul style="list-style-type: none"> ■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪大便器を節水便器とし、上水の使用量を抑制した。 ⑬化学物質排水把握管理促進法の対象物質を含有しない建材を積極的に採用した。 | LR-2 1 1.1 1.2 1.2.1 1.2.2 ⑪ 2 2.1 2.1.1 ⑫ 2.1.2 ⑫ 2.1.3 ⑫ 2.1.4 ⑫ 2.1.5 ⑫ 2.1.6 ⑫ 3 3.1 3.2 3.2.1 ⑬ 3.2.2 ⑬ 3.2.3 ⑬ | ⑪ 節水 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 ⑫ 雑排水等利用システム導入の有無 ⑫ 材料使用量の削減 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 ⑬ 消火剤 ⑬ 断熱材 ⑬ 冷媒 |
| <ul style="list-style-type: none"> ■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) 建物全体の消費エネルギーを抑えることで、運用時のCO2排出に配慮した。 | LR-3 1 2 2.2 | ⑭ 地球温暖化への配慮 ⑮ 温熱環境悪化の改善 |
| "災害に強いしずおか"の形成 (Disaster) | 得点 | 2.9 |
| <ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) 集会施設なので耐震性・耐久性を考慮した。 | Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 2.1.2 ⑯ 2.4 2.4.1 ⑰ 2.4.2 ⑰ 2.4.3 ⑰ 2.4.4 ⑰ 2.4.5 ⑰ | ⑯ 耐震性 ⑯ 免震・制振性能 ⑰ 空調・換気設備 ⑰ 給排水・衛生設備 ⑰ 電気設備 ⑰ 機械・配管支持方法 ⑰ 通信・情報設備 |
| "しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design) | 得点 | 3.0 |
| <ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) 建築物移動円滑化基準の望ましいレベルを満足。 | Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ 3 3.1 3.1.1 ⑲ 3.1.2 ⑲ | ⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画 ⑲ 階高のゆとり ⑲ 空間の形状・自由さ |
| <ul style="list-style-type: none"> ■室外環境(敷地内)対策 (⑲地域性・アメニティへの配慮) 通りからのアイストップを広く、ガラスファザードで明るさと軽快さを表現。 | Q-3 3 3.1 | ⑲ 地域性への配慮、快適性の向上 |
| "緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature) | 得点 | 1.9 |
| <ul style="list-style-type: none"> ■室外環境(敷地内)対策 (⑳生物環境の保全と創出/㉑まちなみ・景観への配慮/㉒敷地内温熱環境の向上) 接道部の緑化を多くし、周辺の景観に配慮した。 | Q-3 1 2 3 3.2 | ⑳ 生物環境の保全と創出 ㉑ まちなみ景観への配慮 ㉒ 敷地内温熱環境の向上 |
| <ul style="list-style-type: none"> ■敷地外環境対策 (㉓温熱環境悪化の改善) 適切な量の駐車場を設置して交通負荷抑制に努めた。 | LR-3 2 2.2 | ㉓ 温熱環境悪化の改善 |

CASBEE[®]-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

| 1-1 建物概要 | | 1-2 外観 | |
|----------|-------------------------------|--------|----------------|
| 建物名称 | (仮称)平安ステーションホール | 階数 | 地上3F |
| 建設地 | 静岡県駿東郡長泉町下土狩字中峠田70-471-1170-6 | 構造 | S造 |
| 用途地域 | 第二種住居地域 防火地域指定なし | 平均居住人員 | 10人 |
| 地域区分 | 6地域 | 年間使用時間 | 1,440時間/年(想定値) |
| 建物用途 | 集会所 | 評価の段階 | 基本設計段階評価 |
| 竣工年 | 2020年10月 予定 | 評価の実施日 | 2019年12月5日 |
| 敷地面積 | 2,494㎡ | 作成者 | 山崎公夫 |
| 建築面積 | 953㎡ | 確認日 | 201●年●月●日 |
| 延床面積 | 2,176㎡ | 確認者 | 山崎公夫 |



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.7 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外のオンサイト手法 ④上記+オフサイト手法

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.5

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.6

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.0

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 1.8

LR のスコア = 2.9

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.9

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.8

| 3 設計上の配慮事項 | |
|---|---|
| 総合 | その他 |
| 良好な都市環境を形成し、通りに開けた空間を確保する計画とした。 | |
| ※CASBEE静岡2016年版による評価結果 | |
| Q1 室内環境 LED照明設備採用。天井と床に吸音性材料。ブラインドの設置。 | Q2 サービス性能 可動パーテーションを多用し、フレキシブルな要求に応える。 |
| LR1 エネルギー 適切な断熱材を施し、外皮の熱環境抑制に努めた。LED照明を採用し、消費エネルギー削減に努めた。 | LR2 資源・マテリアル 有害物質を含まない材料を使用する様に努めた。 |
| | Q3 室外環境 (敷地内) 通りからのアイストップを広げ、ガラスファザードで明るさと軽快さを表現。 |
| | LR3 敷地外環境 適切な量の駐車場を設置して交通不可抑制に努めた。 |

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい